

# 2013 ひょうご浄化槽シンポジウムの開催

水環境保全への意識の向上、少子高齢化等の社会情勢の変化する中で、それぞれの市町にふさわしい生活排水処理計画の構築が求められている。特に、人口密度が低く、かつ人口減少が進む地域においては、集合処理のメリットが働きにくく、地方自治体の財政状況の悪化と相俟って、これまでの人口増を前提として検討されてきた生活排水処理計画の見直しが必要となる。

本シンポジウムでは、兵庫県内における生活排水処理の現状と今後の市町における浄化槽設置整備事業の普及推進の一助となるよう、市議会議員、行政及び浄化槽関係者等を対象に議論していただくために開催したもの。

- ◆日 時／平成 25 年 11 月 8 日（金）13:00~16:00
- ◆場 所／ラッセホール（ローズサローン）：神戸市中央区中山手通
- ◆後 援／兵庫県・兵庫県連合婦人会・兵庫県消費者団体連絡協議会・兵庫県地域振興対策協議会・淡路地域生活排水適正処理推進協議会・（一社）全浄連近畿ブロック協議会

（一社）兵庫県水質保全センターの主催による「2013 ひょうご浄化槽シンポジウム」を神戸市内で開催し、地元選出の国会議員（代理出席の秘書 8 名）、市議会議員（12 名）、行政（30 名）及び兵庫県連合婦人会及び兵庫県消費者団体連絡協議会（50 名）並びにセンター会員と近畿の浄化槽関係団体を含め 200 名が参加した。

基調講演では、環境省浄化槽推進室指導普及係長の山本浩之氏から「浄化槽を活かした今後の汚水処理施設の普及について」と綾部市前市長の四方八洲男氏からは「小さいことはいいことだ~合併処理浄化槽のすすめ~」と題しての講演を頂いた。

パネルディスカッションでは、「残された未整備地域にとって何が必要か？」をテーマに常葉大学の小川浩教授をコーディネーターに加古川市議会議員の末澤正臣氏、兵庫県農政環境部環境管理局長の森川格氏、公益財団法人日本環境整備教育センター参事の国安克彦氏にそれぞれの立場でのご意見を頂いた後、講師 2 名を含めた、パネルディスカッションが行われ、会場からも活発な質問がでるなど盛会のうちに終了した。

シンポジウム終了後に出席者からアンケートに協力を頂いた。アンケートでは、この度のシンポジウムの講演内容及びパネルディスカッションの内容並びにその他ご意見を記載して頂いた。回答頂いた結果、大部分の方が非常に良くわかった若しくは、良くわかったとの回答を得た。

また、出席された市議会議員の方々からは、「浄化槽の維持管理に国の補助金を創設して欲しい。」、「単独処理浄化槽から合併処理浄化槽に入れ替える際に、補助金の割増が必要不可欠である。」、「浄化槽の整備に個人負担の少ない市町村設置整備型事業による国庫補助制度が有ることを初めて知った。」、「市町村設置事業を取り入れたい。」、「高齢化が進展する中で下水処理は、課題が大きすぎる。」、「国の方針によって下水道の整備を行ってきたのに今になって浄化槽に切り替えとは如何なものか」等のご意見を頂いた。

浄化槽を使用されている方からは、維持管理費用が高く法定検査料金を負担することに疑問がある等のご意見を頂いた。皆様方からの貴重なご意見を今後のセンター運営に活かしていきたい。



四方 八洲男氏による講演



シンポジウム会場(パネルディスカッション時)